

公益財団法人国際エメックスセンター 令和4年度事業計画

I 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

II 事業計画

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第14回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス14）の開催準備等

エメックス14の開催については、令和6年（2024年）9月にロシアのムルマンスクで開催する予定であった。しかしながら、現在の状況を鑑みて、科学・政策委員会を開催し、再検討を行う。

① エメックス特別セッションの開催準備

「里海」等に関するセッションをエメックス特別セッションとして開催する準備を進める。特別セッションの内容については、エメックス科学・政策委員会で協議を行う。

② 青少年環境教育交流セッションの開催準備

選抜した日本の学生が、海外の学生と沿岸域や流域での環境保全活動等の体験報告や情報・意見交換を通じて交流を行う「青少年環境教育交流セッション」の開催準備を進める。

イ 科学・政策委員会の開催

エメックス14の開催計画の再検討について協議を行うと共に、世界の閉鎖性海域情報データベースの充実強化等について、科学・政策委員から専門家としての助言等を得るため、科学・政策委員会を開催する。

〔開催時期〕 令和4年（2022年）4月頃（予定）

〔開催方法〕 オンラインによる協議（予定）

ウ 国内外機関との連携

国際的な調査・研究事業の推進に向けて、国内外の研究者等との人的ネットワークを構築していくため、NPO法人里海づくり研究会議、西日本国際環境協力機関連絡会、ECSA（河口域・沿岸科学学会）、PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）、MEDCOAST財団等の国内外の関係機関との連携・充実を図る。

① NPO法人里海づくり研究会議との連携

松田 治エメックス副理事長が理事長を務めるNPO法人里海づくり研究会議

等と連携し、里海づくりに取り組む人々が一堂に集う場として「第3回里海カンファレンス」を開催し、里海づくりに関する情報交換や取り組み事例の紹介等を行い、里海づくりの取り組みを国内外に発信する。（※「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」の協賛行事として開催）

【第3回里海カンファレンス】

〔開催時期〕 令和4年（2022年）10月30日（日）

〔開催場所〕 神戸市内

〔主催〕 （公財）国際エメックスセンター、NPO法人里海づくり研究会議

〔内容〕 ・日本における里海づくりの代表的な事例紹介

〔 岡山県備前市日生町、沖縄県国頭郡恩納村、
宮城県南三陸町志津川湾、高知県大月町柏島 〕

・パネルディスカッション及び総合討論

②西日本国際環境協力機関連絡会との連携

西日本にある国際的な環境協力を行っている機関の連絡会である西日本国際環境協力機関のワーキンググループ・メンバーとして、「西日本国際環境協力機関連絡会」に参加し、情報交換、意見交換を行い、連携を図る。

③ECSA（河口域・沿岸科学学会）との連携

ECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association、河口域・沿岸科学学会）主催の国際会議「ECSA59」において、日本における里海づくりの事例等を発表することにより、世界の里海づくりの発展と拡大に貢献することを目指すと共にECSAとの更なる連携強化を図る。

【ECSA59会議】

〔開催時期〕 令和4年（2022年）9月5日（月）～8日（木）

〔開催場所〕 サン・セバスチャン（スペイン）

④PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）との連携

エメックスが非政府パートナーとなっているPEMSEA（Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia）との情報交換等を進め、連携を強化する。

⑤MEDCOAST（地中海沿岸）財団との連携

オーザン科学・政策委員が代表を務めるMEDCOAST財団との情報交換等を引き続き行い、連携を強化する。

※MEDCOAST (Mediterranean Coastal Foundation) 財団

設立：1993年

目的：沿岸管理を通じて地中海と黒海の沿岸及び海洋の保全に貢献し、地中海及び黒海沿岸諸国、個人と組織の科学的かつ専門的な協力を強化する。

事務局：アンカラ（トルコ）

主な活動：・国際会議、ワークショップの開催
・トレーニングプログラムの実施
・調査研究の実施

⑥SDG14の海洋行動コミュニティでの連携

平成30年(2018年)11月、タイで開催したEMECS12のパタヤ宣言において、「国際エメックスセンターはリーダーシップを発揮するため、国連の持続可能な開発目標：海洋および海の資源の保全と持続可能な利用（SDG14）において、ボランティア・コミットメントの登録を目指すことにしている。」と表明し、平成31年(2019年)2月にボランティア・コミットメント※を登録した。

SDG14の目標に沿った活動を引き続き実施する。

※エメックス SDG14 ボランティア・コミットメント要旨

エメックス会議を通じて閉鎖性海域の環境保全に係る課題を解決するための知的ネットワークを構築し、閉鎖性海域の統合的管理の重要性を世界に発信する。

エ 調査研究事業

① 若手研究者の活動支援及び研究プロジェクトの企画

令和2年度に創設した若手研究者の活動を支援するための研究活動費の助成制度を継続実施し、客員研究員の指導の下、閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む若手研究者の育成を図る。

また、国際エメックスセンター独自の研究としてふさわしい研究テーマ、研究体制や実施方法等を確定し、研究を進める。研究成果については、将来的にエメックス会議をはじめとする国際会議で発信し、国際エメックスセンターの存在意義を内外にアピールする。

② 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等が進んだ湾奥部の環境の再生を目指して尼崎港に設置している生物共生護岸や人工干潟等の実証実験施設を研究の場として市民活動団体等に提供する。

2 情報収集整備活用事業

ア インターネットによる情報発信等

世界の閉鎖性海域情報データベースの充実強化を進め、ホームページやFacebook等によるタイムリーな情報発信を行い、国際エメックスセンターの

認知度向上を図る。

イ エメックスニュースレター等による情報発信

国際エメックスセンターの活動状況や世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュースレター」（日本語・英語）の内容を一層充実して情報発信を行う。

また、メール配信システム（メルマガ）を利用して、会議やイベントの開催案内などを行う。

ウ パンフレットによる情報発信

日本語版、英語版のパンフレットを活用した情報発信を行う。

エ 広報アドバイザー制度の活用

令和2年度に創設した広報アドバイザー制度を活用し、専門知識を有するアドバイザーからの助言等を活用し、各種広報媒体の特性を生かした広報活動を積極的に推進する。

3 人材育成・普及啓発事業

ア 関係団体とのネットワークを通じた若手研究者の発掘

関係団体等と協力・連携してセミナー等を開催し、海洋研究に関心を持つ若年層を増やし、海洋環境保全に携わる人材のすそ野を広げ、海洋環境の保全活動の促進を図る。

イ 高校生による海洋環境保全研究発表会（仮称）の開催

海洋環境保全活動に取り組んでいる高校生に活動発表の場を提供し、意見交換・交流を促進することにより、次世代の環境保全活動を担う青少年を育成支援する。

〔開催時期〕 令和4年（2022年）8月（予定）

〔開催場所〕 神戸市内（予定）

ウ 環境イベントへの出展等

国際エメックスセンターの活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、第3回里海カンファレンスや高校生による海洋環境保全研究発表会（仮称）などのイベントで出展を行う。